浜の活力再生プラン

令和 6～10 年度

第 3 期

1 地域水産業再生委員会

組織名	日置地域水産業再生委員会 ID:139013
代表者名	久木留 秀行 (江口漁業協同組合 代表理事組合長)

再生委員会の構成員	江口漁業協同組合、吹上町漁業協同組合 日置市、鹿児島県 (鹿児島地域振興局林務水産課)
オブザーバー	鹿児島県機船船曳網漁業者協議会西薩部会 吹上浜吾智網漁業者協議会

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	日置市 (江口漁協、吹上町漁協) ※漁業許可統数 機船船曳網 (13)、吾智網 (19)、刺網 (23)、きすまわしさし網 (21)、かじき流し (13)、小型底曳網 (20)、さわら流網 (26)、ばいかご (4)、ふぐかご (3) (江口漁協R4. 2. 1～R5. 1. 31 総会資料/吹上町漁協R4. 4. 1～5. 3. 31 総会資料)
-------------------	---

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

<p>日置市の海域は東シナ海に面した外海であり、日本三大砂丘の 1 つである吹上浜中央部に位置する。地域の北部海域 (東市来・日吉地区) は、江口漁港 (2 種) を拠点とする江口漁業協同組合 (正組合員数 66 名、准組合員数 123 名)、南部海域 (吹上地区) は、吹上漁港 (1 種) を拠点とする吹上町漁業協同組合 (正組合員数 33 名、准組合員数 61 名) がそれぞれ担っている。また、吹上漁港においては、河口港のため、台風や季節風による砂移動で満潮時にしか船の出入りが出来ず、出漁機会の逸失が深刻な問題となっている。</p> <p>日置市沿岸の海域は、遠浅の砂泥質で瀬礁が少ないことから、人工魚礁を主体とした漁場でマダイ・チダイを対象とした吾智網漁業をはじめ、サゴシ・サワラ等を対象としたサワラ流網・曳縄漁業、回遊するバショウカジキ等を対象とした流網漁業、東シナ海で主に水揚げされる月日貝を対象とした小型底曳網漁業、シラスを対象とした機船船曳網漁業が営まれている。</p> <p>地域内の漁業生産量 (令和 4 年) は、194. 3t/108 百万円であり、第 2 期策定の 5 年前と比較して水揚量が約 15% まで減少している。その要因は当該地域の主要魚種・シラスの記録的な不漁であり、漁獲から加工までを行っていた生産組合は 5 つのうち 1 つが解散、他組合や会社も従業員を解雇するなど地域内の主力であるシラス漁の不漁により漁村の疲弊化が進んでいる。</p> <p>しかしながら、もう一つの主要魚種である月日貝については、新しい動きが進んでいる。現在、江口漁協に新規就業した若手漁師たちが「鹿児島に 100 年続く水産業を興す」を目標に、月日貝の養殖・増殖、マーケティング、物販、6 次産業化、魚食普及イベント、漁村のゲストハウス運営等様々な取り組みを行っており、行政、鹿児島大学水産学部、水族館等と産学官連携した取り組みを行っている。その活動がマスコミ等で報じられ、月日貝の魚価は令和 2 年、329 円/kg であったものが令和 4 年には 689 円/kg まで向上した (各年港勢調査)。月日貝を起爆剤に江口漁協のみならず、江口漁港施設区域ひいては吹上浜一帯の再活性化へ期待がかかっている。</p>
--

(2) その他の関連する現状等

日本三大砂丘の1つである吹上浜は、遠浅の地形であることからサーフィンやSUPをはじめ、マリンスポーツも盛んで、海浜公園も整備され、景観も良いことから多くの観光客が訪れ、日置市の関係人口創出の拠点にもなっている。近年は、この地のポテンシャルを活かすため、民間事業者が主体となり、音楽イベントやマルシェなどを開催、また日置市の新たな特産品「月日貝」を使ったイベントが開催されている。また、漁業者が主体となり、漁業体験や魚食普及のイベント等を開催し漁村の食文化の伝承機会の提供を行っている。

また各漁協が経営する物産館・直売所においては、鮮魚販売・水産加工品の製造・レストランでの魚食提供等を行うことで魚価向上、ブランド化、魚食普及、また当該施設での雇用による漁家収入の安定化に寄与している。

しかしながら、当該漁村地域の過疎化が急激に進んでいる。漁業背後集落实態調査による背後集落人口では平成29年が1,756人、令和5年が1,546人と88%まで減少しており、令和5年から江口漁港周辺を通るバスが廃止、徒歩圏内で利用できる公共交通はゼロとなった。

今後は、漁港施設区域の有効活用による更なる魅力向上及び新規就業者の積極的な受け入れにより漁村の再活性化を図る必要がある。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

これまで効果のあった活動を継続しつつ、解決できなかった課題・新たな課題を解決するために下記の活動を行う。

1. 漁業収入向上のための取組

(1) 魚価向上及び高付加価値化

- ①鮮度保持技術の向上及び品質向上のための取組みを行う。
- ②主要魚種であるマダイ、月日貝およびシラスの資源管理の徹底を行う。
- ③漁協による水産物小規模卸売市場での買い支えを行う。

(2) 鮮魚類及び水産加工品の消費拡大及び販路拡大

- ①水産加工品の新商品開発・ブランド化を図る。
- ②ECサイトやふるさと納税等を利用した店舗外での販売力強化を図る。
- ③魚食普及活動（イベント等）の推進を図る。

(3) 海業による漁業者の収入の拡大

- ①月日貝BBQ施設を開設し、漁獲物の販売数量及び単価向上、また漁業者の所得向上を図る。

(4) その他の関連事業

- ①各種機関の連携による増殖場・魚礁の設置を行う。
- ②水産資源かん養のための稚魚放流及び藻場造成に努める
- ③海洋汚染防止のため漂流・漂着物の処理を行う。
- ④港内の航路浚渫を行う。
- ⑤漁業新規就業者の確保に努める。

<p>2. 漁業コスト削減のための取組</p> <p>(1) 燃油コストの削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ①各漁船に搭載されたエンジンに適した回転数での航行を行う。 ②定期的な船底等の清掃を行う。 ③省エネ型機器・新船の導入を検討する。 ④情報共有化や漁場の共同探索による効率的な操業に努める。 <p>3. 漁村の活性化のための取組</p> <p>(1) 交流人口の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ①月日貝BBQ施設の設置による漁村全体の観光振興及び関係人口創出を図る。 ②江口蓬莱館のHP及びインスタグラム等の定期的な発信により地域の魅力をPRする。
--

(3) 資源管理に係る取組

<ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島県漁業調整規則により、採捕できる水産動物の体長制限や採捕禁止期間を設けるとともに、漁法等の制限を行っている。 ・鹿児島海区漁業調整委員会指示により、マダイ・ヒラメの体長制限を設けている。 ・藻場造成、マダイ・ヒラメ稚魚の放流、イカの産卵床の設置を行い、水産資源の回復に努めている。 ・江口漁協の資源管理協定により、採捕できる水産動物の体長制限や採捕禁止期間を設けている。 ・江口漁協が独自で月日貝の水揚量を100kg/回、水揚げ可能なサイズを直径9.5cm程度以上、曳網時間を1.5～2時間と制限を設け、漁をしている。

(4) 具体的な取組内容

1 年目（令和 6 年度） 所得向上率（基準年比） 3. 3 %

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>(1) 魚価向上及び高付加価値化</p> <p>①鮮度保持技術の向上及び品質向上のための取組みを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サワラ流網・曳網漁業者は、主な漁獲物であるサワラ・サゴシについて、生き締め及び船上血抜きを徹底を行い、品質向上を図ることで魚価の向上を図る。 ・バショウカジキを対象とする流し網漁においては、流網の巡回回数を維持(30分おき)、網にかかったバショウカジキの早期発見による迅速な水揚げを行うことで品質向上を図る。 ・月日貝の曳網時間を2時間以下、また水揚げ後10時間以上生簀に置いておくことで、砂噛みが少ない月日貝を出荷、品質向上及び高付加価値化に努める。 <p>②主要魚種であるマダイ、月日貝及びシラスの資源管理の徹底を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江口協組合及び吹上町漁協が定めている資源管理協定に基づき、禁漁日を定め、マダイ、シラス、月日貝の資源管理を行う。 ・江口漁協では月日貝に関する独自規制を定め、曳網時間は1.5時間から2時間、直径9.5cm以下のものは水揚げしない、また100kg/回の水揚げ制限を行い、次シーズンの資源が枯渇しないよう努める。 ・月日貝の資源管理のため、養殖技術試験を産学官連携して行う。月日貝の生態についての研究、種苗生産及び栽培方法を探る。 <p>③漁協による水産物小規模卸売市場での買い支えを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、漁業者が水揚げする魚介類を江口蓬莱館等の直売所向け及び干物加工向けに安定的に仕入れることにより、漁業者の収入向上及び魚価向上を図る。
---------------------	---

(2) 鮮魚類及び水産加工品の消費拡大及び販路拡大

①水産加工品の新商品開発・ブランド化を図る。

- ・豊漁時に価格が下がる魚介類について、フィレ加工・真空パック化し、急速冷凍を行う。ECサイトで販売するほか店頭用の惣菜類等地域性・独自性のある商品開発に利用する。
- ・新規導入した電気乾燥機を使用し、これまで塩蔵わかめのみで販売していた漁業青年部が養殖するワカメについて、乾燥わかめを新たに開発し、漁業者の所得向上につなげる。

②ECサイトやふるさと納税等を利用した店舗外での販売力強化を図る。

- ・ふるさと納税用の商品開発等店頭以外での収益を増やしていく。
- ・新設した江口蓬莱館公式ホームページでのECサイト販売の件数を年間35件に増やす。

③魚食普及活動（イベント等）の推進を図る。

- ・江口蓬莱館での販促イベントを年10回開催し、コロナ禍で落ち込んだ集客数と販売額の復活を図る。
- ・日置市が作成した月日貝のさばき方動画や地魚・水産業の魅力を伝える映像コンテンツを物産館内放映及びYouTube配信することで、消費者の水産業・地魚への理解・興味を深め、魚食普及に繋げる。
- ・稚魚放流等に合わせて魚の生態等を伝える講座及びさばき方体験等を実施、魚食普及に繋げる。
- ・西薩海道おさかなネットワークを活用し、イベント開催やスーパー等への出店を行う（年3回程度）。

(3) 海業による漁業者の収入の拡大

①月日貝BBQ施設を開設し、漁獲物の販売数量及び単価向上、また漁業者の所得向上を図る。

- ・魚介類を含む食材は、江口蓬莱館からの完全仕入れにより、漁協及び漁業者の所得・経営安定を図る。
- ・月日貝は漁業者から直接仕入れることにより、所得向上及び魚価の安定を図る。
- ・禁漁期等に漁業者が勤務することにより、副業収入を得ることができ、所得向上に繋がる。

(4) その他関連事業

①各種機関の連携による増殖場・魚礁の設置を行う。

- ・さつま地区水産環境整備工事R6-2工区による増殖場整備を行う。

②水産資源かん養のための稚魚放流及び藻場造成に努める。

- ・水産多面的機能発揮対策事業により藻場ブロックの投入等を行い、モニタリングを実施していく。また稚魚放流等も実施、地域小学生も交えた交流拠点の場としていく。

③海洋汚染防止のため漂流・漂着物の処理を行う。

- ・重要な観光資源である吹上浜海岸の景観保護と海洋汚染の防止のため、漂流・漂着物の処理を、漁業者・行政等地域一体となって行う。

④港内の航路浚渫を行う。

- ・港内航路への砂堆積により、干潮時に航行ができないため、漁業者及び漁協は、漁港管理者(江口漁港→鹿児島県、吹上漁港→日置市)へ定期的な航路浚渫を要請し、操業機会の確保に努める。

⑤漁業新規就業者の確保に努める。

- ・行政・漁協・県漁連が一体となり、漁業就業希望者を対象とした長期の漁業実践研修を実施し、専業で漁業を営めるよう育成に努める。
- ・日置市は引き続き新規就業者については、生活費等の援助を行い、就労支援を図る。

<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>2. 漁業コスト削減のための取組</p> <p>(1) 燃油コストの削減</p> <p>①各漁船に搭載されたエンジンに適した回転数での航行を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者が燃油消費量削減のため、各漁船に搭載されたエンジンごとの最適な回転数を維持した航行を行う <p>②定期的な船底等の清掃を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者が、燃油消費量削減のため、船底、プロペラ等の洗浄・研磨・塗装を実施する。 <p>③省エネ型機器・新船の導入を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機関換装・新船購入の際は省エネ型の機器を積極的な導入を図る。 <p>④情報共有化や漁場の共同探索による効率的な操業に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に燃油消費の多い機船船曳網漁業とカジキ流網漁業を営む漁業者は、引き続き情報の共有化を進め、漁場の共同探索を行なうことで効率的な操業を目指す。
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<p>3. 漁村の活性化のための取組</p> <p>(1) 交流人口の拡充</p> <p>①月日貝BBQ施設の設置による漁村全体の観光振興及び関係人口創出を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江口漁港施設区域内に漁業者が主体となり、月日貝をメインとした魚介類を提供するBBQ施設をオープンさせ、地域や月日貝の認知度向上を図る。 ・ターゲット層を20-40代とし、ターゲット層が50代以上の江口蓬莱館との相乗効果を狙い、更なる関係人口創出の拠点となるよう努める。 ・地元雇用を行い（1人程度）、漁村活性化を図る。 <p>②江口蓬莱館のHP及びインスタグラム等の定期的な発信により地域の魅力をPRする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPの定期的な発信及びインスタグラムのフォロワー4,000人を目指す。
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・種子島周辺漁業対策事業（収入向上対策(2)-①） ・ポストコロナ農業生産体制革新プログラム事業（収入向上対策(2)-②） ・日置市単独事業（収入向上対策(2)-③） ・さつま地区広域漁場整備事業（収入向上対策(4)-①） ・水産多面的機能発揮対策事業、日置市農林水産業振興事業（種苗放流事業）（収入向上対策(4)-②、③） ・日置市単独事業（収入向上対策(4)-④） ・日置市農林漁業新規就業者支援事業、日置市農林業後継者就業支援事業（収入向上対策(4)-⑤） ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（収入向上対策2-(1)-③） ・水産業競争力強化漁船導入緊急対策事業（収入向上対策2-(1)-③）

2年目（令和7年度） 所得向上率（基準年比）7.0%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>(1) 魚価向上及び高付加価値化</p> <p>①鮮度保持技術の向上及び品質向上のための取組みを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サワラ流網・曳縄漁業者は、主な漁獲物であるサワラ・サゴシについて、引き続き活き締め及び船上血抜きを徹底を行うことで、品質向上を図ることで魚価の向上を図る。 ・バショウカジキを対象とする流し網漁においては、流網の巡回回数を維持し(30分おき)、網にかかったバショウカジキの早期発見による迅速な水揚げを行うことで品質向上を図る。 ・引き続き月日貝の曳網時間を2時間以下、また水揚げ後10時間以上生簀に置いておくことで、砂噛みが少ない月日貝を出荷、品質向上及び高付加価値化に努める。 <p>②主要魚種であるマダイ、月日貝及びシラスの資源管理の徹底を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き江口漁協及び吹上町漁協が定めている資源管理協定に基づ
---------------------	--

き、禁漁日を定め、マダイ、しらす及び月日貝の資源管理を行う。

- ・江口漁協では月日貝に関する独自規制について都度、漁業者間で協議の場を設け、資源管理に配慮した水揚げを行う。
- ・月日貝の養殖実験については、その栽培や漁業の可能性を考慮した飼育試験を行う。

③漁協による水産物小規模卸売市場での買い支えを行う。

- ・漁協は、漁業者が水揚げする魚介類を江口蓬莱館等の直売所向け及び干物加工向けに安定的に仕入れることにより、漁業者の収入向上及び魚価向上を図る。また江口蓬莱館については直近10年の売上が10億を切るなど下降気味であるため、さらなる販売強化を図る。

(2) 鮮魚類及び水産加工品の消費拡大及び販路拡大

①水産加工品の新商品開発・ブランド化を図る。

- ・豊漁時に価格が下がる魚介類について、フィレ加工・真空パック化し、急速冷凍を行う。ECサイトで販売するほか店頭用の惣菜類等地域性・独自性のある商品開発に利用する。
- ・漁業青年部による養殖わかめ乾燥商品についてパッケージ化を行い江口蓬莱館の閑散期2、3月の主力商品になるようブランド化を図る。
- ・江口蓬莱館で加工している干物について、1～3月が他月比107%と売上が多いため、豊漁時に魚を乾燥・干物にさせるなど、1～3月の売上基準に並ぶよう干物加工量を増やす。

②ECサイトやふるさと納税等を利用した店舗外での販売力強化を図る。

- ・ふるさと納税用の商品開発、店頭以外での収益を増やしていく。
- ・新設した江口蓬莱館公式ホームページでのECサイト販売の件数を年間40件に増やす。

③魚食普及活動（イベント等）の推進を図る。

- ・江口蓬莱館での販促イベントを年10回開催し、コロナ禍で落ち込んだ集客数と販売額の復活を図る。
- ・日置市が作成した月日貝のさばき方動画や地魚・水産業の魅力を伝える映像コンテンツを物産館内放映及びYouTube配信することで、消費者の水産業・地魚への理解・興味を深め、魚食普及に繋げる。また、月日貝漁解禁される9月には動画等を活用したPRに努める。
- ・稚魚放流等に合わせて魚の生態等を伝える講座及びさばき方体験等を実施、引き続き魚食普及に繋げる。
- ・西薩海道おさかなネットワークを活用し、イベント開催やスーパー等への出店を行う（年3回程度）。また、他市の物産館視察を行うなど、魚食普及の効率的な方法を探る。

(3) 海業による漁業者の収入の拡大

①月日貝BBQ施設を開設し、漁獲物の販売数量及び単価向上、また漁業者の所得向上を図る。

- ・魚介類を含む食材は、江口蓬莱館からの完全仕入れにより、漁協及び漁業者の所得・経営安定を図る。
- ・月日貝は漁業者から直接仕入れることにより、シーズン後半の値崩れを防止し、kg単価700円を目指す。
- ・禁漁期等に漁業者が勤務することにより、副業収入を得ることができ、所得向上に繋がる。また、それによる顧客意識の獲得により、月日貝の品質向上等に繋げる。

(4) その他関連事業

①各種機関の連携による増殖場・魚礁の設置を行う。

- ・令和6年に完成した増殖場について、漁業者へのモニタリング等により魚礁の安定実用化を目指す。

	<p>②水産資源かん養のための稚魚放流及び藻場造成に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き水産多面的機能発揮対策事業により藻場ブロックの投入等を行い、モニタリングを実施していく。また近年湾内に急増しているウニ対策についても検討を進める。 <p>③海洋汚染防止のため漂流・漂着物の処理を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要な観光資源である吹上浜海岸の景観保護と海洋汚染の防止のため、漂流・漂着物の処理を、漁業者・行政等地域一体となって行う。また、ウミガメ保護の観点からも定期的な清掃を行う。 <p>④港内の航路浚渫を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・港内航路への砂堆積により、干潮時に航行ができないため、漁業者及び漁協は、漁港管理者(江口漁港→鹿児島県、吹上漁港→日置市)へ定期的な航路浚渫を要請し、操業機会の確保に努める。 <p>⑤漁業新規就業者の確保に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政・漁協・県漁連が一体となり、漁業就業希望者を対象とした長期の漁業実践研修を実施し、専業で漁業を営めるよう育成に努める。 ・日置市は引き続き新規就業者については、生活費等の援助を行い、就労支援を図る。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>2. 漁業コスト削減のための取組</p> <p>(1) 燃油コストの削減</p> <p>①各漁船に搭載されたエンジンに適した回転数での航行を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者が燃油消費量削減のため、各漁船に搭載されたエンジンごとの最適な回転数を維持した航行を行う <p>②定期的な船底等の清掃を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者が、燃油消費量削減のため、船底、プロペラ等の洗浄・研磨・塗装を実施する。 <p>③省エネ型機器・新船の導入を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機関換装・新船購入の際は省エネ型の機器を積極的な導入を図る。 <p>④情報共有化や漁場の共同探索による効率的な操業に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に燃油消費の多い機船船曳網漁業とカジキ流網漁業を営む漁業者は、引き続き情報の共有化を進め、漁場の共同探索を行なうことで効率的な操業を目指す。
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<p>3. 漁村の活性化のための取組</p> <p>(1) 交流人口の拡充</p> <p>①月日貝BBQ施設の設置による漁村全体の観光振興及び関係人口創出を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月日貝BBQ施設の更なるPRのため官民連携となって事業を推進する。 ・ターゲット層を20-40代とし、ターゲット層が50代以上の江口蓬莱館との相乗効果を狙い、更なる関係人口創出の拠点となるよう努める。 ・地元雇用を行い(1~2人程度)、漁村活性化を図る。 <p>②江口蓬莱館のHP及びInstagram等の定期的な発信により地域の魅力をPRする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPの定期的な発信及びInstagramのフォロワー4,500人を目指す。
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・種子島周辺漁業対策事業(収入向上対策(2)-①) ・日置市単独事業(収入向上対策(2)-①) ・ポストコロナ農業生産体制革新プログラム事業(収入向上対策(2)-②) ・日置市単独事業(収入向上対策(2)-③) ・さつま地区広域漁場整備事業(収入向上対策(4)-①) ・水産多面的機能発揮対策事業、日置市農林水産業振興事業(種苗放流事業)(収入向上対策(4)-②、③) ・日置市単独事業(収入向上対策(4)-④、収入向上対策(4)-⑤) ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業(収入向上対策2-(1)-③) ・水産業競争力強化漁船導入緊急対策事業(収入向上対策2-(1)-③)

<p>漁業収入向上 のための取組</p>	<p>(1) 魚価向上及び高付加価値化</p> <p>① 鮮度保持技術の向上及び品質向上のための取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サワラ流網・曳縄漁業者は、主な漁獲物であるサワラ・サゴシについて、引き続き生き締め及び船上血抜きの徹底を行うことで、品質向上を図ることで魚価の向上を図る。 ・バショウカジキを対象とする流し網漁においては、流網の巡回回数を維持し(30分おき)、網にかかったバショウカジキの早期発見による迅速な水揚げを行うことで品質向上を図る。 ・引き続き月日貝の曳網時間を2時間以下、また水揚げ後10時間以上生簀に置いておくことで、砂噛みが少ない月日貝を出荷、品質向上及び高付加価値化に努める。 <p>② 主要魚種であるマダイ、月日貝及びシラスの資源管理の徹底を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き江口漁協及び吹上町漁協が定めている資源管理協定に基づき、禁漁日を定め、マダイ、シラス及び月日貝の資源管理を行う。また、状況に合わせた見直しを都度漁協内で検討する。 ・江口漁協では月日貝に関する独自規制について都度、漁業者間で協議の場を設け、資源管理に配慮した水揚げを行う。 ・月日貝の養殖技術については、稚魚を実験的に管理、引き続き飼育試験を行う。 <p>③ 漁協による水産物小規模卸売市場での買い支えを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、漁業者が水揚げする魚介類を江口蓬莱館等の直売所向け及び干物加工向けに安定的に仕入れることにより、漁業者の収入向上及び魚価向上を図る。また江口蓬莱館レストランでは、豊漁の魚種などを活用した特別メニューなど開発することで、消費拡大及び誘客を図る。 <p>(2) 鮮魚類及び水産加工品の消費拡大及び販路拡大</p> <p>① 水産加工品の新商品開発・ブランド化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊漁時に価格が下がる魚介類について、フィレ加工・真空パック化し、急速冷凍を行う。また、容量が不足している冷凍庫について新規導入を検討する。 ・漁業青年部による養殖わかめの乾燥商品について、通年商品化することで青年部員の所得向上を目指す。 ・江口蓬莱館で加工している干物について、1～3月が他月比107%と売上が多いため、豊漁時に魚を乾燥・干物にさせるなど、1～3月の売上基準に並ぶよう干物加工量を増やす。 <p>② ECサイトやふるさと納税等を利用した店舗外での販売力強化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税用の商品開発、店頭以外での収益を増やしていく。また、発送対応ができる職員を増やすなど人材確保に努める。 ・新設した江口蓬莱館公式ホームページでのECサイト販売の件数を年間45件に増やす。 <p>③ 魚食普及活動（イベント等）の推進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月日貝BBQ施設と連携を図り、若年層から高齢者層まで足を運んでいただけるイベントを開催する。 ・稚魚放流等に合わせて魚の生態等を伝える講座及びさばき方体験等を実施、引き続き魚食普及に繋げる。 ・西薩海道おさかなネットワークを活用し、イベント開催や市外のスーパー等への出店を行う（年3回程度）。また、他市の物産館視察を行うなど、魚食普及の効率的な方法を探る。
--------------------------	---

	<p>(3)海業による漁業者の収入の拡大</p> <p>①月日貝BBQ施設を開設し、漁獲物の販売数量及び単価向上、また漁業者の所得向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚介類を含む食材は、江口蓬莱館からの完全仕入れにより、漁協及び漁業者の所得・経営安定を図る。 ・月日貝は漁業者から直接仕入れることにより、シーズン後半の値崩れを防止し、kg単価950円を目指す。 ・禁漁期等に漁業者が勤務することにより、副業収入を得ることができ、所得向上に繋がる。また、それによる顧客意識の獲得により、月日貝の品質向上等に繋げる。 <p>(4)その他関連事業</p> <p>①各種機関の連携による増殖場・魚礁の設置を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年に完成した増殖場について、漁業者へのモニタリング等により魚礁の安定実用化を目指す。 <p>②水産資源かん養のための稚魚放流及び藻場造成に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き水産多面的機能発揮対策事業により藻場ブロックの投入等を行い、モニタリングを実施していく。また近年湾内に急増しているウニ対策についても検討を進める。 <p>③海洋汚染防止のため漂流・漂着物の処理を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要な観光資源である吹上浜海岸の景観保護と海洋汚染の防止のため、漂流・漂着物の処理を、漁業者・行政等地域一体となって行う。また、ウミガメ保護の観点からも定期的な清掃を行う。 <p>④港内の航路浚渫を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・港内航路への砂堆積により、干潮時に航行ができないため、漁業者及び漁協は、漁港管理者(江口漁港→鹿児島県、吹上漁港→日置市)へ定期的な航路浚渫を要請し、操業機会の確保に務める。 <p>⑤漁業新規就業者の確保に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政・漁協・県漁連が一体となり、漁業就業希望者を対象とした長期の漁業実践研修を実施し、専業で漁業を営めるよう育成に務める。 ・日置市は引き続き新規就業者については、生活費等の援助を行い、就労支援を図る。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>2. 漁業コスト削減のための取組</p> <p>(1) 燃油コストの削減</p> <p>①各漁船に搭載されたエンジンに適した回転数での航行を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者が燃油消費量削減のため、各漁船に搭載されたエンジンごとの最適な回転数を維持した航行を行う <p>②定期的な船底等の清掃を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者が、燃油消費量削減のため、船底、プロペラ等の洗浄・研磨・塗装を実施する。 ・令和7年に改修した上架施設により、効率的に船底等の清掃を行い、海況に左右されない作業を行う。 <p>③省エネ型機器・新船の導入を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機関換装・新船購入の際は省エネ型の機器を積極的な導入を図る。 <p>④情報共有化や漁場の共同探索による効率的な操業に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に燃油消費の多い機船船曳網漁業とカジキ流網漁業を営む漁業者は、引き続き情報の共有化を進め、漁場の共同探索を行なうことで効率的な操業を目指す。
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<p>3. 漁村の活性化のための取組</p> <p>(1) 交流人口の拡充</p> <p>①月日貝BBQ施設の設置による漁村全体の観光振興及び関係人口創出を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月日貝BBQ施設の更なるPRのため官民連携となって事業を推進する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ターゲット層を20-40代とし、ターゲット層が50代以上の江口蓬莱館との相乗効果を狙い、更なる関係人口創出の拠点となるよう努める。 ・江口蓬莱館だけではなく、江口浜海浜公園に来場するファミリー層の遊び場として漁港施設区域内を楽しんでもらえるよう月日貝BBQ施設を拠点に遊具等を活用し、誘客を図る。 ②江口蓬莱館のHP及びInstagram等の定期的な発信により地域の魅力をPRする。 ・HPの定期的な発信及びInstagramのフォロワー5,000人を目指す。
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・種子島周辺漁業対策事業（収入向上対策(2)-①） ・日置市単独事業（収入向上対策(2)-①） ・ポストコロナ農業生産体制革新プログラム事業（収入向上対策(2)-②） ・日置市単独事業（収入向上対策(2)-③） ・さつま地区広域漁場整備事業（収入向上対策(4)-①） ・水産多面的機能発揮対策事業、日置市農林水産業振興事業（種苗放流事業）（収入向上対策(4)-②、③） ・日置市単独事業（収入向上対策(4)-④、収入向上対策(4)-⑤） ・種子島周辺漁業対策事業（収入向上対策2-(1)-②） ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（収入向上対策2-(1)-③） ・水産業競争力強化漁船導入緊急対策事業（収入向上対策2-(1)-③）

4年目（令和9年度） 所得向上率（基準年比）12.9%

漁業収入向上のための取組	<p>(1) 魚価向上及び高付加価値化</p> <p>①鮮度保持技術の向上及び品質向上のための取組みを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サワラ流網・曳縄漁業者は、主な漁獲物であるサワラ・サゴシについて、引き続き生き締め及び船上血抜きを徹底を行うことで、品質向上を図る。 ・バショウカジキを対象とする流し網漁においては、流網の巡回回数を維持し(30分おき)、網にかかったバショウカジキの早期発見による迅速な水揚げを行うことで品質向上を図る。 ・引き続き月日貝の曳網時間を2時間以下、また水揚げ後10時間以上生簀に置いておくことで、砂噛みが少ない月日貝を出荷、品質向上及び高付加価値化に努める。 <p>②主要魚種であるマダイ、月日貝及びシラスの資源管理の徹底を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き江口漁協及び吹上町漁協が定めている資源管理協定に基づき、禁漁日を定め、マダイ、シラス及び月日貝の資源管理を行う。また、状況に合わせた見直しを都度漁協内で検討する。 ・機船船曳網漁業では、定期的に巡視を行い、資源の状況確認を行う。 ・江口漁協では月日貝に関する独自規制について都度、漁業者間で協議の場を設け、資源管理に配慮した水揚げを行う。 ・月日貝の養殖技術については、本格的な管理漁業に向けた準備を行う。 <p>③漁協による水産物小規模卸売市場での買い支えを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、漁業者が水揚げする魚介類を江口蓬莱館等の直売所向け及び干物加工向けに安定的に仕入れることにより、漁業者の収入向上及び魚価向上を図る。また江口蓬莱館レストランでは、豊漁の魚種などを活用した特別メニューなど開発することで、消費拡大及び誘客を図る。 <p>(2) 鮮魚類及び水産加工品の消費拡大及び販路拡大</p> <p>①水産加工品の新商品開発・ブランド化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊漁時に価格が下がる魚介類について、フィレ加工・真空パック化し、急速冷凍を行う。また、容量が不足している冷凍庫について引き続き新規導入を検討する。
--------------	--

- ・漁業青年部による養殖わかめの乾燥商品について、通年商品化することで青年部員の所得向上を目指す。
- ・江口蓬莱館で加工している干物について、1～3月が他月比107%と売上が多いため、豊漁時に魚を乾燥・干物にさせるなど、1～3月の売上基準に並ぶよう干物加工量を増やす。
- ・養殖技術向上により仕入れた月日貝については、乾燥機を使用するなど、長期保存が可能な商品開発を探索。

②ECサイトやふるさと納税等を利用した店舗外での販売力強化を図る。

- ・ふるさと納税用の商品開発、店頭以外での収益を増やすことで、横ばいとなっている江口蓬莱館の収益を増やしていく。また、発送対応ができる職員を増やすなど人材確保に引き続き努める。
- ・新設した江口蓬莱館公式ホームページでのECサイト販売の件数を年間50件に増やす。

③魚食普及活動（イベント等）の推進を図る。

- ・月日貝BBQ施設と連携を図り、若年層から高齢者層まで足を運んでいただけるイベントを開催する。
- ・稚魚放流等に合わせて魚の生態等を伝える講座及びさばき方体験等を実施、引き続き魚食普及に繋げる。また地元小学生だけでなく、内陸部の小学校の生徒などにも声をかけ、魚食を広める活動を行う。
- ・西薩海道おさかなネットワークを活用し、イベント開催や市外のスーパー等への出店を行う（年3回程度）。また、他市の物産館視察を行うなど、魚食普及の効率的な方法を探索。

(3) 海業による漁業者の収入の拡大

①月日貝BBQ施設を開設し、漁獲物の販売数量及び単価向上、また漁業者の所得向上を図る。

- ・魚介類を含む食材は、江口蓬莱館からの完全仕入れにより、漁協及び漁業者の所得・経営安定を図る。
- ・月日貝は漁業者から直接仕入れることにより、シーズン後半の値崩れを防止し、kg単価950円を維持する。
- ・禁漁期等に漁業者が勤務することにより、副業収入を得ることができ、所得向上に繋がる。また、それによる顧客意識の獲得により、月日貝の品質向上等に繋げる。

(4) その他関連事業

①各種機関の連携による増殖場・魚礁の設置を行う。

- ・これまで設置した増殖場について、漁業者へのモニタリング等により魚礁の安定実用化を目指す。

②水産資源かん養のための稚魚放流及び藻場造成に努める。

- ・引き続き水産多面的機能発揮対策事業により藻場ブロックの投入等を行い、モニタリングを実施していく。同時に魚が生息しやすい水草や時期などを関係機関と協議しながら調整していく。また近年湾内に急増しているウニ対策についても引き続き検討を進める。

③海洋汚染防止のため漂流・漂着物の処理を行う。

- ・重要な観光資源である吹上浜海岸の景観保護と海洋汚染の防止のため、漂流・漂着物の処理を、漁業者・行政等地域一体となって行う。また、ウミガメ保護の観点からも定期的な清掃を行う。

④港内の航路浚渫を行う。

- ・港内航路への砂堆積により、干潮時に航行ができないため、漁業者及び漁協は、漁港管理者（江口漁港→鹿児島県、吹上漁港→日置市）へ定期的な航路浚渫を要請し、操業機会の確保に務める。

	<p>⑤漁業新規就業者の確保に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政・漁協・県漁連が一体となり、漁業就業希望者を対象とした長期の漁業実践研修を実施し、専業で漁業を営めるよう育成に務める。 日置市は引き続き新規就業者については、生活費等の援助を行い、就労支援を図る。
漁業コスト削減のための取組	<p>2. 漁業コスト削減のための取組</p> <p>(1) 燃油コストの削減</p> <p>①各漁船に搭載されたエンジンに適した回転数での航行を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全漁業者が燃油消費量削減のため、各漁船に搭載されたエンジンごとの最適な回転数を維持した航行を行う <p>②定期的な船底等の清掃を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全漁業者が、燃油消費量削減のため、船底、プロペラ等の洗浄・研磨・塗装を実施する。 <p>③省エネ型機器・新船の導入を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 機関換装・新船購入の際は省エネ型の機器を積極的な導入を図る。 <p>④情報共有化や漁場の共同探索による効率的な操業に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 特に燃油消費の多い機船船曳網漁業とカジキ流網漁業を営む漁業者は、引き続き情報の共有化を進め、漁場の共同探索を行なうことで効率的な操業を目指す。
漁村の活性化のための取組	<p>3. 漁村の活性化のための取組</p> <p>(1) 交流人口の拡充</p> <p>①月日貝BBQ施設の設置による漁村全体の観光振興及び関係人口創出を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 月日貝BBQ施設の更なるPRのため官民連携となって事業を推進する。 ターゲット層を20-40代とし、ターゲット層が50代以上の江口蓬莱館との相乗効果を狙い、更なる関係人口創出の拠点となるよう努める。 江口蓬莱館だけではなく、江口浜海浜公園に会場するファミリー層の遊び場として漁港施設区域内を楽しんでもらえるよう月日貝BBQ施設を拠点に遊具等を活用し、誘客を図る。 月日貝BBQ施設のオプションとして漁船体験や魚のつかみ取りなど体験型のアクティビティを導入、魚食普及・担い手育成にもつなげる。 <p>②江口蓬莱館のHP及びインスタグラム等の定期的な発信により地域の魅力をPRする。</p> <ul style="list-style-type: none"> HPの定期的な発信及びインスタグラムのフォロワー5,500人を目指す。
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> 種子島周辺漁業対策事業（収入向上対策(2)-①） 日置市単独事業（収入向上対策(2)-①） ポストコロナ農業生産体制革新プログラム事業（収入向上対策(2)-②） 日置市単独事業（収入向上対策(2)-③） さつま地区広域漁場整備事業（収入向上対策(4)-①） 水産多面的機能発揮対策事業、日置市農林水産業振興事業（種苗放流事業）（収入向上対策(4)-②、③） 日置市単独事業（収入向上対策(4)-④、収入向上対策(4)-⑤） 種子島周辺漁業対策事業（収入向上対策2-(1)-②） 競争力強化型機器等導入緊急対策事業（収入向上対策2-(1)-③） 水産業競争力強化漁船導入緊急対策事業（収入向上対策2-(1)-③）

5年目（令和10年度） 所得向上率（基準年比）13.7%

漁業収入向上のための取組	<p>(1) 魚価向上及び高付加価値化</p> <p>①鮮度保持技術の向上及び品質向上のための取組みを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> サワラ流網・曳縄漁業者は、主な漁獲物であるサワラ・サゴシについて、引き続き生き締め及び船上血抜きの徹底を行うことで、品質向上を図ることで魚価の向上を図る。
--------------	--

- ・バショウカジキを対象とする流し網漁においては、流網の巡回回数を維持し(30分おき)、網にかかったバショウカジキの早期発見による迅速な水揚げを行うことで品質向上を図る。
- ・温暖化に伴い、氷のみの対応では夏場の活魚取扱量が極端に減少するため、水槽保冷機等の導入を進める。
- ・引き続き月日貝の曳網時間を2時間以下、また水揚げ後10時間以上生簀に置いておくことで、砂噛みが少ない月日貝を出荷、品質向上及び高付加価値化に努める。

②主要魚種であるマダイ、月日貝及びシラスの資源管理の徹底を行う。

- ・引き続き江口漁協及び吹上町漁協が定めている資源管理協定に基づき、禁漁日を定め、マダイ、シラス及び月日貝の資源管理を行う。また、状況に合わせた見直しを都度漁協内で検討する。
- ・機船船曳網漁業では、定期的に巡視を行い、資源の状況確認を行う。
- ・江口漁協では月日貝に関する独自規制について都度、漁業者間で協議の場を設け、資源管理に配慮した水揚げを行う。
- ・月日貝の養殖については、安定した生産、規模拡大及び展開を図り、持続可能な水産業として漁村の発展を図る。

③漁協による水産物小規模卸売市場での買い支えを行う。

- ・漁協は、漁業者が水揚げする魚介類を江口蓬莱館等の直売所向け及び干物加工向けに安定的に仕入れることにより、漁業者の収入向上及び魚価向上を図る。また昨今の温暖化により珍しい魚種が水揚げされることも多くなったため、希少魚や未利用魚等の取扱いを始め、蓬莱館のPRにも繋げる。

(2) 鮮魚類及び水産加工品の消費拡大及び販路拡大

①水産加工品の新商品開発・ブランド化を図る。

- ・豊漁時に価格が下がる魚介類について、フィレ加工・真空パック化し、急速冷凍を行う。また、容量が不足している冷凍庫について引き続き新規導入を検討する。
- ・漁業青年部による養殖わかめの乾燥商品について、通年商品化することで青年部員の所得向上を目指す。
- ・養殖により栽培できた月日貝は砂噛みもなく、寄生虫もないことから、安心安全のブランド化につながりやすいため、離乳食等の子ども向け商品開発も視野にマーケティングを行う。

②ECサイトやふるさと納税等を利用した店舗外での販売力強化を図る。

- ・ふるさと納税用の商品開発、店頭以外での収益を増やすことで、江口蓬莱館の収益を増やしていく。また、発送対応ができる職員を増やすなど人材確保に引き続き努める。
- ・江口蓬莱館公式ホームページでのECサイト販売の件数を年間55件に増やす。

③魚食普及活動（イベント等）の推進を図る。

- ・月日貝BBQ施設と連携を図り、若年層から高齢者層まで足を運んでいただけるイベントを開催する。
- ・稚魚放流等に合わせて魚の生態等を伝える講座及びさばき方体験等を実施、引き続き魚食普及に繋げる。また地元小学生だけでなく、内陸部の小学校の生徒などにも声をかけ、魚食普及を広める活動を行う。
- ・西薩海道おさかなネットワークを活用し、イベント開催や市外のスーパー等への出店を行う（年3回程度）。また、他市の物産館視察を行うなど、魚食普及の効率的な方法を探る。

(3) 海業による漁業者の収入の拡大

- ①月日貝BBQ施設を開設し、漁獲物の販売数量及び単価向上、また漁業者の所得向上を図る。**

	<ul style="list-style-type: none"> ・魚介類を含む食材は、江口蓬萊館からの完全仕入れにより、漁協及び漁業者の所得・経営安定を図る。 ・月日貝は漁業者から直接仕入れることにより、シーズン後半の値崩れを防止し、kg単価950円を維持する。 ・禁漁期等に漁業者が勤務することにより、副業収入を得ることができ、所得向上に繋がる。また、それによる顧客意識の獲得により、月日貝の品質向上等に繋げる。 <p>(4)その他関連事業</p> <p>①各種機関の連携による増殖場・魚礁の設置を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで設置した増殖場について、漁業者へのモニタリング等により魚礁の安定実用化を目指す。 <p>②水産資源かん養のための稚魚放流及び藻場造成に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き水産多面的機能発揮対策事業により藻場ブロックの投入等を行い、モニタリングを実施していく。同時に魚が生息しやすい水草や時期などを関係機関と協議していながら調整していく。また近年湾内に急増しているウニ対策についても引き続き検討を進める。 <p>③海洋汚染防止のため漂流・漂着物の処理を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要な観光資源である吹上浜海岸の景観保護と海洋汚染の防止のため、漂流・漂着物の処理を、漁業者・行政等地域一体となって行う。また、ウミガメ保護の観点からも定期的な清掃を行う。 <p>④港内の航路浚渫を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・港内航路への砂堆積により、干潮時に航行ができないため、漁業者及び漁協は、漁港管理者(江口漁港→鹿児島県、吹上漁港→日置市)へ定期的な航路浚渫を要請し、操業機会の確保に務める。 <p>⑤漁業新規就業者の確保に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政・漁協・県漁連が一体となり、漁業就業希望者を対象とした長期の漁業実践研修を実施し、専業で漁業を営めるよう育成に務める。 ・日置市は引き続き新規就業者については、生活費等の援助を行い、就労支援を図る。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>2. 漁業コスト削減のための取組</p> <p>(1) 燃油コストの削減</p> <p>①各漁船に搭載されたエンジンに適した回転数での航行を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者が燃油消費量削減のため、各漁船に搭載されたエンジンごとの最適な回転数を維持した航行を行う <p>②定期的な船底等の清掃を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者が、燃油消費量削減のため、船底、プロペラ等の洗浄・研磨・塗装を実施する。 <p>③省エネ型機器・新船の導入を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機関換装・新船購入の際は省エネ型の機器を積極的な導入を図る。 <p>④情報共有化や漁場の共同探索による効率的な操業に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に燃油消費の多い機船船曳網漁業とカジキ流網漁業を営む漁業者は、引き続き情報の共有化を進め、漁場の共同探索を行なうことで効率的な操業を目指す。
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<p>3. 漁村の活性化のための取組</p> <p>(1) 交流人口の拡充</p> <p>①月日貝BBQ施設の設置による漁村全体の観光振興及び関係人口創出を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月日貝BBQ施設の更なるPRのため官民連携となって事業を推進する。 ・ターゲット層を20-40代とし、ターゲット層が50代以上の江口蓬萊館との相乗効果を狙い、更なる関係人口創出の拠点となるよう努める。 ・江口蓬萊館だけではなく、江口浜海浜公園に来場するファミリー層の遊び場として漁港施設区域内を楽しんでもらえるよう月日貝BBQ施設を拠

	<p>点に遊具等を活用し、誘客を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月日貝BBQ施設のオプションとして漁船体験や魚のつかみ取りなど体験型のアクティビティを導入、魚食普及・担い手育成にもつなげる。 <p>②江口蓬萊館のHP及びインスタグラム等の定期的な発信により地域の魅力をPRする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPの定期的な発信及びインスタグラムのフォロワー6,000人を目指す。
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・未定（収入向上対策(1)-①） ・種子島周辺漁業対策事業（収入向上対策(2)-①） ・日置市単独事業（収入向上対策(2)-①） ・未定（収入向上対策(2)-①） ・ポストコロナ農業生産体制革新プログラム事業（収入向上対策(2)-②） ・日置市単独事業（収入向上対策(2)-③） ・さつま地区広域漁場整備事業（収入向上対策(4)-①） ・水産多面的機能発揮対策事業、日置市農林水産業振興事業（種苗放流事業）（収入向上対策(4)-②、③） ・日置市単独事業（収入向上対策(4)-④，収入向上対策(4)-⑤） ・種子島周辺漁業対策事業（収入向上対策2-(1)-②） ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（収入向上対策2-(1)-③） ・水産業競争力強化漁船導入緊急対策事業（収入向上対策2-(1)-③）

(5) 関係機関との連携

<p>①日置市・鹿児島地域振興局 地元の行政機関と情報の共有・意思疎通を図りながら、各種補助事業を積極的に取り入れ、取組みが確実に実施され、成果が上がるよう努力する。</p> <p>②鹿児島県水産技術開発センター アマモやホンダワラの育成及び水産加工品開発に係る指導を仰ぎ、技術向上・開発力強化を図る。</p> <p>③鹿児島県農産漁村発イノベーションサポートセンター 6次産業化への取組みや計画づくりについて、専門家の派遣や指導を仰ぎ、水産物の加工・販売会社を設立する。また、開発した商品を活用した販路拡大等戦略作成・実行支援を図る。</p> <p>④鹿児島県漁業協同組合連合会 鮮魚等の販売を強化するとともに消費地市場等の市況等の情報収集に努め、優位販売が出来るよう努める。</p> <p>⑤西薩おさかな海道・日置市直売所ネットワーク 漁協が経営する物産館・直売所の販売力強化のため、地域内直販施設と一体となって各種イベントを行い、ネットワークの強化を図る。</p> <p>⑥水産流通業者・小売業者 多数漁獲された魚種（マダイ・チダイ・月日貝等）の値崩れを防止し、漁業者の所得を確保するため、販売先の多角化に努める。また、同時に消費者ニーズの情報収集を行い、商品力の向上を図る。</p>

(6) 取組の評価・分析の方法・実施体制

<p>浜プランの取組みの実施状況及び効果の発現状況について自ら評価し、その取組の成果を評価・分析するため、委員会は、浜プラン評価検討委員会を毎年1回（9月）開催し、その結果を会員会議に報告し決定する。なお、浜プラン評価検討委員会の構成委員は、事務局長、鹿児島地域振興局、日置市、各漁協、漁業者とする。</p>
--

4 目標

(1) 所得目標

漁業者の所得の 向上10%以上	基準年			
	目標年			

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

魚価の向上	基準年	令和5年度：	月日貝 令和1年度～令和3年度（所得目標に 同じ）の平均：378円/kg
	目標年	令和10年度：	月日貝 813円/kg
交流人口の拡充	基準年	令和5年度：	2物産館の来館者数 令和1年度～令和3年度（所得目標に 同じ）の平均：397,788人
	目標年	令和10年度：	2物産館の来館者数 437,500人

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

月日貝の魚価は前期浜プラン期間中、令和2年、329円/kgであったものが令和4年には689円/kgまで向上した（各年港勢調査）。今期浜プランにおいても、漁期や引き網時間の設定による資源管理の徹底により、基準年単価378円から最終年度平均単価813円（115%向上）を目指す。尚、前期浜プラン実績より本計画につき無理がなく、妥当と判断する。

交流人口の拡充について、令和1年から令和3年までの江口漁協直営の江口蓬莱館及び吹上町漁協直営のおさかな館の来館者数合計は、397,788人であったが、令和10年度においては基準年比10%向上の437,500人を目指す。月日貝BBQ施設やSNSでのPR等により、コロナ収束後の消費の戻りに期待し、妥当と判断する。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
日置市農林漁業新規就業者支援事業 日置市農林漁業後継者就業支援事業	漁業への新規就業時の金銭的な不安への対策として、生活費・住居費の補助を行い、定着率向上に繋げる。
さつま地区広域漁場整備事業(鹿児島県)	水産資源の減少を補うため、増殖場の設置により保護・繁殖を行い漁獲量の回復を図ることにより、所得向上に繋げる。
水産多面的機能発揮対策事業 日置市農林水産業振興事業(種苗放流事業)	水産資源の減少を補うため、稚魚放流により保護・繁殖を行い漁獲量の回復を図ることにより、所得向上に繋げる。
水産多面的機能発揮対策事業	水産資源の減少を補うため、藻場の造成により稚魚の生育場所の確保及び水質の向上を図ることにより、水産業の持つ多面的機能の発揮に資する。
水産多面的機能発揮対策事業	重要な観光資源である吹上浜海岸の景観保護と海洋汚染の防止のため、市民を含めて清掃作業を行うことで、水産業の持つ多面的機能の発揮に資する。
日置市単独事業	吹上漁港の航路浚渫により、出漁機会を確保することで漁業所得の向上に繋げる。
未定	機関換装、新船購入の際に省エネ型機器を積極的に導入することで、燃油コストの削減に繋げる。
種子島周辺漁業対策事業	上架施設を改修することにより、効率的に船底清掃等を行い、出漁機会の損失を防ぐ。
未定	水槽保冷機の導入により活魚取扱量を増やし、単価向上を図る。また、冷凍した魚介類を保管するための冷凍庫を導入し、豊漁時のストック等に備える。